

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-141	23-411	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座 鶴身孝介 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol use disorder and time perception: The mediating role of attention and working memory アルコール使用障害と時間知覚：注意と作業記憶の媒介的役割		
<b>執筆者</b>		
Yunpeng Liu, Huazhan Yin, Xiaoyi Liu, Li Zhang, Dehua Wu, Yan Shi, Yang Chen, Xuhui Zhou		
<b>掲載誌</b>		
Addict Biol. 2024 Feb;29(2):e13367. doi: 10.1111/adb.13367.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール使用障害、注意ネットワーク、時間知覚、作業記憶		38380757
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>アルコール使用障害（AUD）患者において時間知覚がどのように変化するか、また、注意およびワーキングメモリーが時間知覚にどのように影響するかを検討すること。</p> <p><b>方法：</b>AUD患者31名（うち3名は除外）と、年齢・性別を適合させた対照群31名に対し、時間知覚能力、注意ネットワーク、作業記憶能力を評価するための時間二等分課題、注意ネットワークテスト、数唱逆順再生テストを実施した。</p> <p><b>結果：</b>不安、うつ、衝動性を統制した後、AUD患者は600、750、900、1050、1200ミリ秒の時間間隔において「長い」回答の割合が低いことが示された。さらに、対照群と比較して、主観的等価点およびウェーバー比が高かった。さらに、AUD患者は作業記憶リソースの減少に加え、注意および実行制御ネットワークの障害も示した。作業記憶リソースのみが、時間知覚に対するAUDの影響を媒介した。</p> <p><b>結論：</b>AUD患者における時間過小評価は主に作業記憶の欠陥によって引き起こされることが示唆される。</p>		